

## ■会議報告

### 第9回日本放射光学会 放射光基礎講習会 「初心者のための放射光科学入門 基礎から応用まで」報告

日本放射光学会行事幹事 矢代 航 (東北大多元研)

日本放射光学会では、我が国の放射光施設およびユーザー団体と協力し、放射光科学の裾野拡大と、放射光科学入門者に向けた基礎教育の充実を目的とした放射光基礎講習会を過去8年にわたって開催してきました。第9回となる今回は、第8回に引き続き、「初心者のための放射光科学入門 基礎から応用まで」という副題で、2017年9月13日(水)～14日(木)の二日間にわたり、東京大学本郷キャンパス(工学部14号館142講義室)において開催いたしました。前回同様に、今回も全体を基礎編と応用編に分け、基礎編においては、放射光を新たに利用して研究・開発を始めようとしている学生・研究者の皆さんに向けて、放射光の特性をフル活用するために必要な基礎知識を、放射光施設の第一線の現場で活躍されてきた6名の先生方をお招きして、幅広く学べるコースといたしました。また応用編では、放射光を利用した基礎・応用研究のホットな話題について、今まさに最前線でご活躍中の3名の研究者の先生方からご紹介いただきました。以下に今回のプログラムを示します。

#### プログラム

- 9月13日(水)  
12:30-受付  
13:00-13:10 会長挨拶(会長) 趣旨説明(行事幹事)  
【基礎編】  
13:10-14:40 「放射光源について」  
北村英男(理研名誉研究員)  
14:50-16:20 「ビームライン光学技術」  
大橋治彦(JASRI)  
16:30-17:30 「X線を集める」 三村秀和(東大)  
17:40-19:00 交流会(無料)
- 9月14日(木)  
9:00-受付  
9:30-10:30 「偏光の基礎と利用研究」  
平野馨一(KEK)  
10:40-11:40 「コヒーレンスとイメージング」  
矢代 航(東北大学)  
11:40-13:00 昼休み  
13:00-14:30 「放射光を測る」 岸本俊二(KEK)  
14:40-15:40 「X線と物質の相互作用一線形から非線形まで」  
玉作賢治(理研)



図1 ご講演いただいた先生方(上段左から、北村英男先生、大橋治彦先生、三村秀和先生、平野馨一先生、筆者、下段左から、岸本俊二先生、玉作賢治先生、志村まり先生、田中真奈子先生、伊藤廉先生)。

## 【応用編】

- 15:50-16:30 「走査型蛍光 X 線顕微鏡を用いた基礎医学研究」  
志村まり (国際医療研究センター)
- 16:30-17:10 「放射光を用いた鉄文化財の非破壊分析—材料特性と製作技術の解明に向けて—」  
田中真奈子 (昭和女子大)
- 17:10-17:50 「放射光施設を利用した頭髮化粧品メーカーの取り組み」  
伊藤 廉 (株ミルボン)
- 17:50-18:00 閉会の挨拶 (行事幹事)

今回は69名 (一般46名, 学生23名; 学会員30名, 非会員39名) の方々にお申し込みいただきました (過去三番目, 過去8回の平均参加者数: 64名)。講師の先生方 (図1) からは, 基礎から应用到わたって, それぞれ創意工夫に満ちた分かりやすいご講演をいただき, 受講者の皆様も, 長時間にわたる講習会であったにもかかわらず, 最後まで熱心に受講されている姿が印象的でした (図2)。

今回は, 参加者へのサービス低下なしに, 経費を削減する方策として, テキストの電子化 (製本版は希望者のみに有料で配付) などを試みました。前回実施したアンケートの結果では, 製本版が望ましい, という回答が7割に及びましたが, 実際に有料の製本版テキストをお申し込みいただいたのは, 全体の3割弱でした。大幅な経費削減により, 他団体などからのサポートなしの開催としてははじめて, 本事業の黒字化が実現できました。

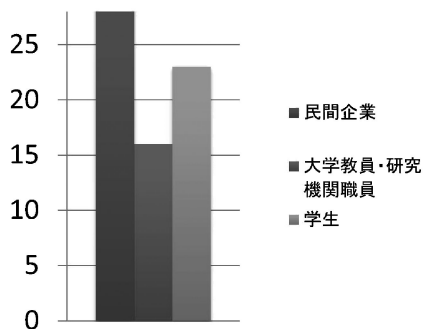
アンケートの集計結果を図3に示します。放射光利用の経験年数については, 3年以内が9割以上でした (例年は8割程度)。本講習会のわかりやすさ, 本講習会が役立ったか, という設問に対しては, ほぼ例年と同じ結果で, おおむね理解できた, 役立った, という回答がそれぞれ大半を占めました。基礎編をもっと長くして欲しい, といった要望や, テキストの電子化に伴い, 他の参加者のマウスのクリック音が気になった, といったコメントもいただきました。

今回の別の新たな取り組みとして, 他の学会や共同利用研究機関などが主催する講習会の担当者らと, 開催日程などについて連絡を取り合うためのメーリングリストおよびWebカレンダーの立ち上げを行いました。開催日の重複を避け, 参加者が関連する講習会を続けて受講できるように

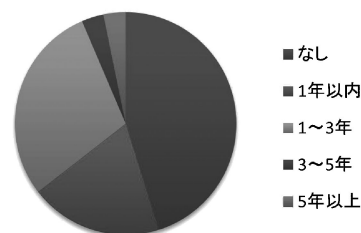


図2 受講風景。

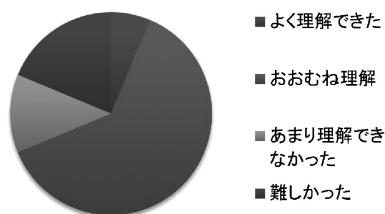
## 参加者所属



## 経験年数



## わかりやすさ



## 役立ったか?

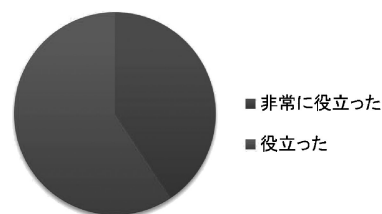


図3 アンケート集計結果。

---

にすることが狙いだったのですが、後者については、必ずしもコヒーレントな活動ができたわけではなく、今後の課題となりました。基礎講習会の参加者の中には、次の週に開催された SPring-8 秋の学校に続けて参加くださった方もおり、講習会の内容も含めて、参加者目線で開催計画を立てていくことが今後はますます重要になると考えております。また、残念ながらご参加いただけなかった方々の中には、関西での開催をご要望される声もありました。東京以外でのサテライト開催など、次回以降にぜひご検討いただければと存じます。

最後に、たいへんご多忙にもかかわらず開会のご挨拶を

いただいた石川哲也会長、工夫を凝らしたテキストの準備にお時間をかけていただき、素晴らしいご講演をいただいた講師の先生方、会場および交流会の準備などをご担当いただいた行事委員の三村秀和先生（東大工）および東大工学部の学生の皆様、プログラムなど企画検討においてご提案いただいた行事委員の皆様、そして Web 参加受付、庶務全般にわたってご尽力いただいた学会事務局（榎ポラリス・セクレタリーズ・オフィス）の中村千佳さん、当日受付をご担当いただいた佐藤亜己奈さんに深く感謝申し上げます。